

春

姉川河口

大きな木々があつて地面には芝生や雑草が茂る春の姉川河口は、春から夏にかけて湖

北にやってくる渡り鳥の中継地点になっています。水辺ではキビタキ、オオルリ、センドイやエゾといったムシクイの仲間など、たくさん鳥が見られるエリアです。芽吹きシーズンですから、植物や小動物など他の自然を愛でるにもおすすすめです。



アオサギ

ダイサギ

コサギ

トビ

キビタキ

オオルリ

ハマシギ

アオアシシギ

コガモ

カワウ

アカゲラ



キジ 食べても美味しい日本の国鳥

〔キジ 雉 L58(♀)~81(♂) 通年 留鳥〕
 草の中に身を潜めながら卵を抱いているので、草刈りのときキジを切ってしまうまで気づかないことがある。足に爪が生えていて強い。桃太郎の家来になれたのは、そのおかげかも。



ヒシクイ 国内では湖北の湖岸が南限

〔カモ 菱喰 L85 10~3 冬鳥〕
 鳥のなかでは大形種。300~500羽が北湖に飛来するが、その大半は亜種オオヒシクイ。名前の通りヒシの実を食べるが、歯がないので噛み砕くことができず、口の中で回しながら棘を折って丸呑みしている。美味で、食用に撃たれて激減したため、今は天然記念物に指定、保護されている。平成28年は9月30日に「初雁」。冬の到来を告げた。



コハクチョウ 10月ごろ湖北に飛来

〔カモ 小白鳥 L120 10~3 冬鳥〕
 びわ湖全域に400~600ほど飛来する。冬の鳥と思われがちだが、早い年は10月中旬にやってきて、田んぼで落ち穂拾いをしている姿がよく見られる。子どもは灰色で、故郷に戻るまで家族で行動する。

湖北野鳥センターが選ぶ 湖北の鳥63選

湖北野鳥センターが選ぶ

湖北の四季を通して観察できる鳥の数は、200種ともいわれる。そのなかから、シロウトでも観察しやすい鳥を湖北野鳥センターが選出。それぞれの特徴については、同センターの職員でムギマキが気に入ったという池田昇平さんに、湖北ネタを盛り込んで語っていただいた。鳥たちがグンと身近になるよ。



*各鳥の名前の下の〔 〕内は、科名、漢字名、大きさ(cm)、湖北で観察できる月、種類の順。
 *大きさ
 L=全長(くちばしの先から尾の先まで)
 W=翼開長(翼を広げたときの両翼先間)



▲旅の途中、シダレザクラの枝で休むオオルリ



▲両足をハの字型に広げて着水寸前のコハクチョウ



▲田んぼで食事中のコハクチョウ